

野田九条通信

2016年8月128号

野田・九条の会 事務局
04-7122-0502



野田 九条の会

検索

参議院選挙の結果を乗り越えて

結果を乗り越えて

第24回参議院選挙は、改憲隠しは成就した。7月10日投票開票され、改憲勢力が非改選を併せ三分の二を獲得した。自民の選挙戦術は巧妙で、過去二回の戦い方と同じアベノミクスで本音を隠した。当面の安定を求める国民はこれに賛同し自民に投じた。野党共闘の四党は改憲阻止を争点とし挑んだが、有権者にはその重大な危機の瀬戸際であることが理解されず、自民の

は動き始め、短期間で衆議院の発議となり国民投票に突き進むであろう。緊急事態条項、環境権または国民の抵抗感のな

え、今の平穏な暮らしは憲法により保障されていること、自民憲法草案はこの憲法の理念を真

の勢い」などと誘導とも思える報道がありました。マスコミの力の大きさを改めて感じます。しかし個々の記者や番組制作者の中には真実を発信したいと頑張っている人もいます。そこで個々の製作現場に対し、自分の意見や心情を訴える「投書作戦」を始めたいと思います。よかった記事、番組への励ましも含め、出してみませんか。送り先は事務局もお手伝いします。巨大なマスコミを動かしましょう。

マスコミの手紙を出そう

平和のつどい・のだ 10th ANNIVERSARY 講演会

経済的に合理的な「平和」を超えて

20日(土) 13:30~ 中央公民館講堂 参加協力券 500円

戦争と経済の関係を解き明かす
今年の「平和のつどい・のだ」の講演会は、東京外国語大学大学院の中山智香子教授をお迎えし、「戦争と経済」をテーマにお話いただきます。アベノミクスで国民が豊かになるのか、戦争に使われるのか、考えてみませんか。(詳細は同封のチラシにて)

①今月の予定

- 8月6日(土) 10:00~12:00
野田・九条の会 定例会「外国の記者から見た日本のマスコミ」視聴と懇談
中央公民館学習室
- 8月7日(日) 13:30~16:30
DVD上映とディスカッション
「福島原発事故から5年『なぜ私が甲状腺がんになっ...』」
南部梅郷公民館 南地域九条の会
- 8月9日(火) 17:30~18:30
9の日行動 駅頭活動・九条通信配布行動
梅郷駅通路 野田九条の会
- 8月19日(金) 13:30~
平和のつどい準備 お手伝い大歓迎
中央公民館 平和のつどい・のだ2016実行委員会
- 8月20日(土) 9:00~18:30
8月21日(日)
平和のつどい・のだ 2016
~戦争する国NO、あした明るい国YES~
中央公民館1階全体 平和のつどい・のだ2016実行委員会
- 9月3日(土) 13:30~16:00
DVD上映とディスカッション
「それでも学びたい」奨学金に揺れる母と娘
中央公民館講座室 子どもの未来を語る会

歴史の巻き戻しストップ 若者たちよ 共に声をあげ続けよう

先日のテレビで日本に住んでいる海外の留学生たちに、今の日本についての考え方を聞いていました。なるほどと思ったのは「第二次大戦のあと、日本は良い方向に向かって復興してきた。なぜ戦争中の時代に逆戻りしようとするのかわからない。世界に誇れる憲法9条があるというのに、なぜ？」という意見でした。秘密保護法、安保関連法がともに強行採決されてしまった日本社会の変化をよく見えていますね。ところで今回の参議院選挙から18歳選挙権となった日本の若者は、どう考えているのでしょうか。

現時点での自由な生活に満足している。憲法なんて面倒くさい。今がよけりゃいいでしょ。こんな感じでしょうか。それとも社会のこともわからないのに選挙は無理という人が多いのでしょうか。そうはいってもだれもが社会の当事者であり、政治の仕組みの中で生きています。学費が捻出できず進学を断

念したり、就職できずに奨学金ローン返済に苦勞する人、ブラック企業で長時間労働に苦しんでいる人も多く、非正規労働者が4割という不安定な現実などに無関心であっても、無関係ではられません。黙っては何も変わりません。身近なところから政治に向き合い、だれもが人間としての尊厳を活かした一生が送れるよう、主権者として選挙で意思表示をしなければ！

最近自民党が、「子どもたちを戦場に送るな」との主張は、「中立性を逸脱した教育」である（のちに削除）として「教育現場での政治的中立を逸脱するような不適切な事例」を募集。投稿フォームで「いつ、どこで、誰が、何を、どのように」を明らかにするよう求めている生徒や保護者をまきこむ密告サイトです。戦前の暗い時代が想起されます。戦争から幸せは生まれないと声を上げ続けなければ！

世直しおねえさん 岩岡 由江

マスコミへの手紙

マスコミへの手紙を書くのが大変という人のために、これから何回か手紙の材料になると思えるものを掲載します。参考になれば幸いです。

多くの人が本音をぶつければマスコミも改善してくれるかもしれません。

NHK 向け

テレビの参院選報道は低調でした。東京都の外添前知事の追及に血道を上げたワイドショーも参院選はほとんど取り上げませんでした。14年衆院選でのテレビ報道の総量は、「郵政選挙」で盛り上がった05年の衆院選の5分の1、03年衆院選の半分に過ぎなかったそうです。今回の参院選の報道量は前回の参院選の30%減だそうです。

この状況証拠から見ると、政治的圧力が効いたということでしょうか。NHKの憲法問題の扱いには大きな疑念を覚えます。改憲勢力が3分の2を取るかもしれないという大事な選挙であり、戦後政治が大きく変わるかもしれない節目なのに、論点整理を避けた感がありました。与党に遠慮したのでしょうか？参院選の体たらくぶりは、安倍政権に批判的な



番組に異を唱えてきた「放送法遵守を求める視聴者の会」も心配するほどです。同会の小川栄太郎氏は、「少ない。これでは国民は何もわからない」と疑問を呈しています。また「9割が批判では困るが、批判自体を控えろということではない。番組ごとに賛成、反対一方の回があってもいい。全体としてバランスをとって多角的な論点を示してほしい」とも言っています。

最も身近なメディアから選挙について十分な情報を得られない国民は不幸です。安保法のように、選挙ではほとんど争点にならなかった政策を選挙後に推し進めるのが安倍政治の特徴です…以上の点は貴局も十分認識していることとは思うのですが、公共放送の代表選手であるNHKがそれを放置しておいて良いのでしょうか？

皆川 純磨